

# この国の民の声聞け

9/16 五曜

元最高裁判事・学者・学生

## 戦争法案廃案しかない

自公両党が戦争法案の採決強行の構えを強める中、参院安保法制特別委員会は15日、識者ら6人を招き、中央公聴会を開きました。過去10年間で最多となる95人の応募者から選ばれた学生団体・SEALDs（シールズ）自由と民主主義のための学生緊急行動）の奥田夢瑠氏（明治学院大学生）ら4氏が、法案の採決に強く反対を表明しました。

### 中央公聴会

「国会前の巨大な群衆の 現するもの」と強調。世代中の一人として国会にきてを越えた反対のうねりは、いま」と述べた奥田氏。70年間の平和主義の歩みをは、行動こそ主権者として 引き継ぎ、守るものだと述当たり前のことであり、べました。「この国の憲法の理念を体 そのうえで、政府答弁が



参院安保法制特別委員会中央公聴会で発言する公述人の（奥から）奥田、松井、小林、白石、浜田、坂元の各氏=15日、国会内

### 陳述要旨の面

二転三転し、何度も速記が止まる審議の状況を受け、「今国会での可決は無理です。廃案にするしかない」と表明。法案については、「自由で民主的な社会を望み、反対する」と述べ、国会議員に対して「政治家とはどうあるべきなのか、考た。」

二転三転し、何度も速記が止まる審議の状況を受け、「今国会での可決は無理です。廃案にするしかない」と表明。法案については、「自由で民主的な社会を望み、反対する」と述べ、国会議員に対して「政治家とはどうあるべきなのか、考た。」

## 締めくくり質疑 職権で設定 きょう採決狙う

与党は15日の参院安保法制特別委員会の理事懇談会で、戦争法案について「論点は出尽くした」と述べた。16日の地方公聴会（横浜）後の締めくくり総括質疑を突然提案。野党の猛反対を押し切って、鳩山内閣委員長の職権で開議を決めました。

参院は15日の参院安保法制特別委員会の理事懇談会で、戦争法案について「論点は出尽くした」と述べた。16日の地方公聴会（横浜）後の締めくくり総括質疑を突然提案。野党の猛反対を押し切って、鳩山内閣委員長の職権で開議を決めました。

名古屋大学の松井秀郎名誉教授は、安倍政権が主張している「自衛防衛」のための集団的自衛権行使という考え方について、「限定的容認ではなく、（国際法上の）集団的自衛権の解釈そのものだ」と述べ、全面的容認にあたると批判。国際司法裁判所（ICJ）が、集団的自衛権の「他国防衛」説を採用しているとも指摘しました。

## 都議会6会派「採決反対」



違憲の戦争法案の強引な採決に反対する緊急アピールを发表し、街頭で訴える都議会6会派の議員有志=15日、東京・新宿駅西口

## 裁判官OB75人反対

党側は「60日ルール」による衆院再可決は認められないと主張。自民党の佐藤勉副委員長は「60日ルールは再可決に含みを残すなど強考えていない」と応じる一行姿勢を崩していません。

党側は「60日ルール」による衆院再可決は認められないと主張。自民党の佐藤勉副委員長は「60日ルールは再可決に含みを残すなど強考えていない」と応じる一行姿勢を崩していません。

### 声明発表「立憲主義に反する」

安全保障関連法案について、全国の地、高裁などを反する」との反対声明を発売した裁判官OB75人が、参院議長宛てに陳情書を出しました。

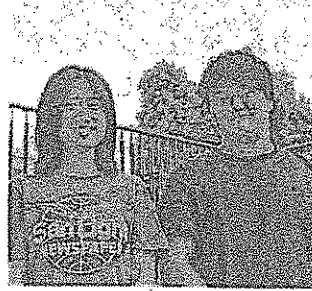
安全保障関連法案について、全国の地、高裁などを反する」との反対声明を発売した裁判官OB75人が、参院議長宛てに陳情書を出しました。



## 参院中央公聴会傍聴の SEALDsメンバー 奥田氏発言に勇気

15日、戦争法案を審議している参議院安保法制特別委員会の中央公聴会で公述人として意見陳述した奥田愛基（あき）さんを、5人のSEALDs（シールズ＝自由と民主主義のための

（左から）服部さんと矢部さん  
15日、国会前



学生緊急行動）のメンバーが傍聴しました。奥田さんの名前が議長に呼ばれた時、議場からはひととき大きな拍手があがりました。

### ■社会に突き刺さる

今春、中央大学法学部を卒業した服部裕紀子さん（25）は、奥田さんの発言に「感動した」と一言。2011年以来、運動を共にしてきた「普通の学生」が国会議員に対して、「勇気を出して、孤独に思考し、判断して行動する、たった一人の

『個』であってほしい」と訴えた場面では、「正しさがゆがめられやすい日本社会にぐさりと突き刺さったのではと思う。傍聴してみても危機感を新たにしたい」と話しました。

（運動を通じ）これからも社会に影響を及ぼしていきたい」と話しました。

### ■当たり前前に声上げる

都内に住む大学生、矢部真太さん（22）は、奥田さんの「この国の当事者、私たちが声をあげるのは当たり前だ」という意見に共感を寄せました。「国民の意思をないがしろにした政治、民主主義の根っこである立憲主義をないがしろにする政府のやりかたこそ『国の存立危機事態、じゃないか』と思います」

家族や友人と政治について話すことが増えたという矢部さん。「声をあげないとおかしい方向に転んでいってしまう。不条理に対しておかしいと言うことが僕の態度として続いていく」と話します。